

老人施設における人間関係についての一考察

前田 栄

60才以上の老人人口は昭和30年度では全人口の8%であるが、70年には18%に増加すると予想されている。一方家族の形態の変化に伴い、老人が家庭外で集団生活を営む可能性は漸増するであろう。身体的、精神的に児童や青壮年と異なつた特性をもつ老人の集団生活の実態を把握することは意味あることと考え、老人施設の運営管理の参考資料の一としてこのような調査を試みたものである。

調査について

老人との面接によつてソシオメトリーを行い、併せて若干の意見調査を行なつた。時期は昭和31年8月である。

対象は東京の某養老施設の女子寮である。本施設では女子の収容者が総数の70%を占めているので先ず女子をとりあげたのである。

調査対象として選択したA・B二寮は、寮の構造、収容数は全く同じで、人数は約30名、玄関を中心に6畳と、10畳2間が東西に並んでいる。南側は廊下、一人当りの面積は約二畳である。

日課は6時起床、昼間は軽い作業、4時半夕食、7時就寝である。食事は炊事場でつくり、配給される。作業収入は一月500円から800円位、小遣錢にあてられる。各寮には寮母が1名ずつ配属され、起居を共にし、老人の生活の管理、指導にあたる。その他老人

の中から自治的に世話係が正副二名ずつ計4名が選出される。その任務は食事の盛付、作業時の世話、病人の世話などである。病気については病室が別にあるので寮では極く軽い者か、病室に入るまでの短時間抜うのみである。外出、外泊は許可を受ければ自由に出る。

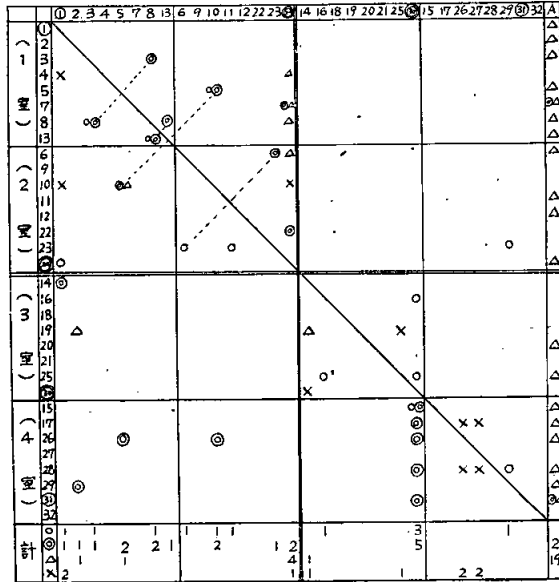
結果について

1 索引反撥関係

第I表その(1)、(2)は索引反撥の関係をまとめたものである。○印は珍しい食物などが手に入つた時、分けあつて食べるような相手、◎印は日常及び作業時などの話相手、△印は気の合わない相手を表わしたものである。A・B寮共、交友関係の結び付は寮の東側、西側に分れている。B寮では更に部屋単位に分かれている傾向がある。これは日頃A寮では食事、作業など全員が一緒にする習慣であるが、B寮では東西に分かれて行つ習慣なので、その差が交友関係の拮がりに表われたものと思われる。「食物を分けあう相手」と「話し相手」は殆ど一致し、様々な人に拮がつているが「悩みの打ちあけ手」としては殆どが寮母と世話係を選んでいる。A寮では「食物の相手」をあげたのは32人中9人(28%)であり、「悩みのうちあけ手」

をあげた者は22人(70%)、「話相手」をあげた者は15人(47%)となっている。B寮では「食物の相手」をあげた者は28人中11人(39%)、

第I表の(1) A 寮



上欄及び左欄の数字は各人を符号で表わしたものの
 ○ 正しい世話係
 ⊙ 副の世話係
 A は寮母
 ○ 珍しい食物などを一緒に
 においあつて食べる
 ⊙ 作業時、日常の話相手
 △ 悩みの打ち相手
 × 気の合わない相手
 ----- 相互選択を示す

では「話相手」としての結びつきである。次に反撥関係を見ると、「気の合わない相手」をあげた者は少なく、A寮では6人が6人を嫌い、そのうち2人は2人の老人から嫌われている。B寮では4人が6人を嫌い、そのうち2人は2人から嫌われている。嫌う理由は「意地が悪い」が最も多く(6人)、その他「利己主義」「気難しい」「うるさい」「手くせが悪い」などとなつている。面接調査で反撥関係をとらえる事は困難であつた為、少数しか表われなかつたが、その一端をうかがいしる事が出来る。

以上の関係を総合して考えると、A寮東側一、二室は相互選択が多いが、その組合せは他の老人との接触をあまり持たない。西側三、四室では正の世話係に圧倒的に人気が集まつているが、副の世話係は孤立している。東側と西側の間には交流がみられる。B寮の東側では9番の世話係と11、12番の間に反撥関係が目立ち、東側と西側には交友関係に交流がない。B寮一室は交友関係が入りまじつており、孤立者もなく、反撥関係もなく、うまくまとまつた部屋という印象をうける。

「悩みのうちあげ手」は19人(68%)、「話相手」は11人(39%)となつている。「悩みのうちあげ手」は前述の如く寮母が多く、A寮では76%、B寮では37%の老人が寮母を対象としている。老人間では世話係がその多くを占めている。普通の老人間のものは少ない。対角線を挟んで点線で結んだのは相互に選択しあつた場合を示す。相互選択はA・B寮共に4組ずつある。合計8組のうち6組ま

食物の相手、話相手、悩みのうちあげ手など、好意的選択を多く受けた者を「個人の地位の指数」を基準として考察する事とし、指数○5以上をとりだしてみると、A寮では寮母以外に5名、B寮では7名いる。A寮で最も高い指導を持つ2名は正の世話係であり、副はそれに入っていない。B寮では正の世話係のうち1名、9番が最高の地位にあり、他の世話係は殆ど選択をうけていない。2、3

番目の地位をもっているのは元の世話係である。二寮の寮母のうちた好意的選択を比較すると、A寮では地位の指数の 0.23 B寮では 0.13 である。

・ 集団全体の特徴をみる「拡張性の指数」(プロクターとルーミスによる)はA寮 0.23 B寮 0.23 でB寮の方が高い。拡張性については成員の平均好意的選択数が多い程、各成員の交渉範囲が広く、グループ全体が社交的雰囲気をもっているといふのであるが、同様な指標として「相互作用の指数」をみると、A寮 0.23 B寮 0.09 である。しかしこの調査の場合、この指数が、寮の実態をそのまま表わしているか否かは他の諸指標、諸現象と併せて考察しなければならない。

尚、この関係について面接調査を補う意味で行なった面接調査即ち「一緒に写真にうつりたい人」をあげさせた結果を、第II表その(1)、(2)に示す。面接調査後約三週間目に行なつたものである。A寮では二つの調査の間に大差はない。面接で選択されなかつた老人が、若干面接調査で選択されている程度である。B寮では面接調査で最も多くの選択をうけていた9番の世話係が、面接調査では全然選択されていない。その他、B寮で面接調査時、集団的な病気で調査不能者が出たが、それらを除けば略々二つの結果は一致している。9番の地位の変化については後述する。

2 フォーマルオーガニゼーションとインフォーマルオーガニゼーションについて

第I表の(2) B 寮

	6	13	15	17	18	19	23	5	7	10	11	12	20	27	7	22	3	4	8	24	16	25	14	26	1	4	2	28	A		
(1室)	6	13	15	17	18	19	23	5	7	10	11	12	20	27	7	22	3	4	8	24	16	25	14	26	1	4	2	28	△		
(2室)	5	7	10	11	12	20	27	5	7	10	11	12	20	27	7	22	3	4	8	24	16	25	14	26	1	4	2	28	△		
(3室)	7	22	3	4	8	24	16	25	7	22	3	4	8	24	16	25	7	22	3	4	8	24	16	25	14	26	1	4	2	28	△
(4室)	14	26	1	4	2	28	14	26	1	4	2	28	14	26	1	4	2	28	14	26	1	4	2	28	14	26	1	4	2	28	△
計	3	2	1	2	1	2	1	3	3	7	2	1	2	3	1	2	3	1	1	1	1	1	1	1	3	1	3	1	11	△	

(1)、(2)である。更に「世話係として最も適切で、自分が選びたい人」についての回答も便宜上、ここに入れた。
A寮では「病気の世話」については32人中22人(70%)が回答し、そのうち12人(54%)が寮母をあげている。B寮も28人中24人

「病気の時世話になりたい人」「不満や改善してもらいたい点について最もよく自分の意見をきいてくれると思う人」「火事など非常時に、行動の指揮をうけるつもりの人」は本来、寮母又は世話係の管である。これが実際にどうなっているかを表わしたのが第III表

第II表の(1) A 寮

	(1)	2	3	4	5	7	8	13	6	9	10	11	12	22	23	14	16	18	19	20	21	25	15	17	26	27	28	29	(3)	32	
(1) 室	○																														
(2) 室																															
(3) 室																															
(4) 室																															
計	2	1	1	1	5	4			4	4	4	5	1	6	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	4	1		

× —— 一緒に写真をとりたい人

(85%)が回答し、うち50%が寮母、41%が世話係をあげている。「不満や改善についての意見をきいてくれる人」はA寮では24人の回答者中91%が寮母をえらび、他は事務関係である。B寮では73%が寮母をえらび、事務関係を少数が選んでいる他、9番の世話係が

33%から選ばれている。問題となるのは「非常時の指揮者」であつて、A寮では回答者23人中90%が寮母をえらび、老人の中から4名が選択されているが、B寮では17人の回答者中65%が寮母をえらぶが、前と同様9番の世

話係も47%から選ばれている。以上の結果から当然指導的立場にたつ寮母が最も多くの選択をうけ、次で世話係が選択されている点では、フォーマルな組織とインフォーマルな組織との間にずれはないかの如くである。しかし当然寮母の指揮をうけるべき非常時に際して寮母と世話係の両方が同じような力を持つてゐる事は、寮母と世話係の間柄が余程密接な関係をもつてゐるのでない限り、危険の可能性を予想させる。この点でB寮のフォーマルオーガニゼーションと、インフォーマルオーガニゼーションの関係には問題がある。

これについて9番の世話係はどのような人間であるかを述べると、元来彼女は信頼や尊敬で世話係に選ばれたのではなく、いばる、いじめるとか云う暴力的な関係で他の老人を押えていたのである。他の老人は止むをえずその力に服していた所、第一回の調査後彼女は些細な事から喧嘩したあげく、無断で寮を出、二日後帰寮したのである。その二日間に他の老人達はこの世話係の圧迫から脱け出、客観的批判を持てるようになり、居室も東側から西側に移された。この事件のため、第一回目の調査では圧倒的に選択され、力を持つていた9番が、第二回目には、誰からも選択をうけないといふようにその地位に変化があつたのである。

9番が以前持つていた力は非常に大きく、殊に東側に対しては影響が強かつた。彼女が住んでいた第二室には反撥関係が多い事、9番以外の世話係が殆ど選択をうけていない事は、9番の持つ力の影

響であり、A寮に比してB寮が拡張性の指数が高い、即ち交友関係が広いというもの、この9番の圧迫に対する反作用とみる事が出来よう。即ちB寮で世話係が大きな力を持ち、それが暴力的なものであり、寮母の力と等しいようなものである事はこの寮の問題点である。

3. 老人集団の指導者について

フォーマルには寮母の下に正副2名宛の世話係が指導的立場にあることは前述の通りである。寮母はその責任の範囲内では最高の支持を得ている。それに次で世話係である。「悩みの打あけ手」「不満の打あけ手」「非常時の指揮者」という寮母と世話係が多くての選択をうけている項目を総合して各個人の「地位の指数」を算出した結果は次の通りである。

A寮は寮母0.29 正の世話係は24番が0.3 30番が0.03 副の世話係は何れも0.008である。B寮では寮母が0.41 正の世話係は9番が0.25 3番0.018 副は0.018と0.09で、A寮と同じく副は殆ど選択をうけていない。世話係以外で多くの選択をうけているのはA寮に1名、B寮に3名いるがいずれも正の世話係をしのぐものはない。そして之等の老人は何れも前に世話係をしていた者である。

次に老人に対し最も好ましい世話係の型をあげてもらい、それに基づきわしい老人の名をあげてもらった結果を第II表に(◎)で示した。選択をうけたのは殆ど現在の世話係、それも正の地位のものである。B寮では9番が圧倒的に選ばれている。

第II表の(2) B 寮

	13	15	17	18	17	23	5	10	(1)	12	20	27	7	22	(3)	4	6	24	16	25	6	14	25	(2)	2	28	(7)	
(1室)	13																											
(2室)		15																										
(3室)			17																									
(4室)				18																								
計	3	2	2	2	1		4	1	1				4	3	2	1	1	1	9			1	6	2				

現在の世話係が絶対に支持されているかという点必ずしもそうでない。即ち好ましい係の型について回答した者のうち、実際に個人の名をあげたのはA寮で67%、B寮で46%である。そしてこの回答

率は他の問に対する回答率をすつと下廻っている。B寮で殊に低いのは現在力をもっている世話係への暗黙の反感を示したものである。選挙のやり方は事前に部屋で話しあつて大体決める場合が多いとの事である。実際に世話係になり得る人は身体が丈夫である事が

先決条件となる。従つて、年齢の若い人が多くなる。信頼されてい
る人も、老衰が甚だしくなると、止めなければならぬ。そして、
一方、えらばれた人は身体が丈夫な限り、仲々止めさせる事は難し
い。まして強い力をもっている者をやめさせる事は余程の事情がな

第Ⅲ表の(1) A 寮

	(1)	2	3	4	5	7	8	13	6	9	10	11	12	22	23	14	16	18	19	20	21	25	15	17	26	27	28	29	32	A	
(一) 室	○																														
(二) 室																															
(三) 室																															
(四) 室																															
計																															

○ — 病気の時世話になりたい人
 × — 不満の打受け手
 △ — 非常時にたよる人
 ⊙ — 世話係として適当な人
 A — 寮母
 0 — 事務所

A寮では、親切、健康など積極的な表現しか表われて
いない。この事もA・B寮の世話係の特徴からきたも
のとみられる。現在の世話係の年齢は、8人中7人ま
で60才台で老人施設入園者としては最も若い層に属す
る。又学歴は高卒が最も多いが、これは全体からみ
ると上位にある。
世話係よりもつと強い指導力を持つ寮の管理者であ
る寮母について考えなければならぬが、ここでは僅
か二寮のみの対象であるので、簡単にふれておくだけ
にとどめる。

い限り非常に困難なのである。
A寮の正の世話係、24番と30番は世話係としての職責上のもの以外
の友好関係及び間接調査においても相当の支持をうけているの
に対し、B寮では9番が一人であらゆる選択をうけていて、3番はど

の面でも殆ど選択されていない。これは一方の9番が圧倒的な力を
もっているため、他方は無力な存在のものが選ばれたと思われる。
世話係としてどんな人が好ましいかという問に対して、回答の51
%は親切な人、穏やかな人、思いやりのある人等と答え、中でも親
切な人というのが圧倒的に多い。次いで健康な人とい
う答が25%である。又若い人、知識人などというものが
少数ある。この他に感情的でない人、無理をいわない
人、いばらない人など、ネガティブな型の答、寮母と
の間をうまくやつてゆく人などがあげられているが、
このような型の答はすべてB寮のみに表われている。
A寮では、親切、健康など積極的な表現しか表われて
いない。この事もA・B寮の世話係の特徴からきたも
のとみられる。現在の世話係の年齢は、8人中7人ま
で60才台で老人施設入園者としては最も若い層に属す
る。又学歴は高卒が最も多いが、これは全体からみ
ると上位にある。
世話係よりもつと強い指導力を持つ寮の管理者であ
る寮母について考えなければならぬが、ここでは僅
か二寮のみの対象であるので、簡単にふれておくだけ
にとどめる。

を豊に清潔にする方面に時間を多く使い得るように組合せている。又世話係にあまり多くの権限を持たせないようにする事、その為重要なことは自身で管理しているという。

B寮は年齢が60才台であり、収容老人の年齢に近い。老人施設の管理については大いに研究がなされるべきであるが直接、日常老人と接触する職員の資質、教育、訓練についてもつと充分の考慮がはられるべきでないだろうか。

4 孤独な老人と、親しまれている老人について施設という集団の中で孤立している老人、即ち誰からも友人として求められていない人について考察を加えてみよう。

今回の調査で食事の相手、話相手として誰も名前をあげず、又誰からも相手として求められなかつた孤独な老人は、A寮に4人、B寮に3人、計7人(12%)であり、又すべての調査の項目(間接調査を含めて)において誰からも選ばれなかつた老人は、A寮に6人B寮に1人、計7人(12%)、唯一回しか相手として選ばれなかつた老人は、A寮に4人、B寮に7人、計11人(19%)である。以上合せて18人(30%)を一応孤独な老人即ち、他の老人とのコミュニケーションを持たない人として考えてみたい。尚他の調査(老人福祉研究論集)では半数以上が友人を持たないという例があつた。寮母に寮全体の老人についての観察を語つてもらつた結果と比較すると、ここにあげた孤独な考えの80%は、人をいじめる、どなる、他の人から嫌わ

第Ⅲ表の(2) B 寮

	6	13	15	17	18	19	23	5	10	11	12	20	27	7	22	3	4	8	24	16	25	4	26	1	21	2	25	A	O
(1 室)	ox							o	o	o	o	o	o																x
(2 室)								o	o	o	o	o	o																x
(3 室)								o	o	o	o	o	o																x
(4 室)								o	o	o	o	o	o																x
計								7	5	8	11			2														4	11

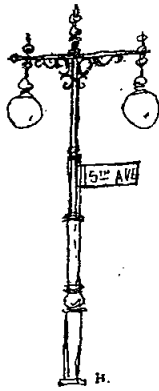
れている存在である等の評をつけている。中には精神病を疑われる者も一名存在した。一方比較的多数の者から親しまれている老人はどのような老人

か。第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ表の何れでも多くの選択をうけている者とそうでない者とを種々の社会的条件から比較すると次の如くである。これは老人自身から面接で得た資料と、保護台帳によつて調査したものととの綜合である。

学歴は女学校以上が最も多く選択され、以下低い者程、選択される割合が少ない。年齢は60才台が最も高く、前歴即ち、元の生活程度が高かつた者の方が多く選択されている。即ち元上流階級、中流階級にいた者が多くの選択をうけている。過去の生活に対する意識即ち昔のよかつた生活が忘れられないでいるか否かは老人の集団生活において問題をもつと思われるが、そういう意識の全然ないと思われる者が多くの選択をうけている。寮母の老人への観察との関連は、良い観察と人気とは大体一致するが、二、三の例外がある。B寮の9番の世話係はその一例である。

以上の人間関係における諸問題の他に、本調査においては施設において改善すべき点、不満な事、楽しい事、嫌な事などをとりあげた、その結果は紙数の関係で省略するが、最も問題になつたのは居室が狭い事であつた。この事は人間関係の上に大きな影響を持つている点を考えねばならない。

以上極めて僅かな対象であるが、老人保護施設における集団生活の人間関係に関する一端をとらえたと思う。



子供達と共に

「むとせ」

早いものです。社会福祉学科の学生有志が、子供会をはじめ六年。いろいろなことがありましたよ。場を得るにも苦労しました。或るときは寺院で、又あるときは教会で、保育園でね。そう、子供達がさわざぎすぎて「うるさい」と、どなられたこともありました。

今は、生活保護法による宿所提供施設の母子寮で、働きに出ている留守のお母さん役の一端をかねて、毎週土曜午後一回子供会、火曜、金曜の夜二回学習指導をしています。有志学生メンバー十一名の子供達に対する夢は、大小様々、コーラス団をつくりたい。図書をそろえたい。アコーディオンがほしい。学習指導のための机がほしい。お母さん達のレクリエーション会をもちたい等々数えきれない。子供達の髪が長いとすぐ床屋に変更する学生。子供達の間で喧嘩がおこれば、その対象を自分に巧みに移し、きかぬ子供のたたかれ役、かみつかれ役の引受手。そして、にこにこ顔で応待。子供達の間では子供さながらの姿。一步学園に入れば立派な大学生。問題をもちかけるお母さんには、ケースワーカー。また研究会でも、抄読会でも、プログラム検討の時にも、子供達の個人記録、ケーススタディでも、何でもこなしてゆく。

クリスマス、ひなまつり、お正月等の年中行事のプランをたてる時のうれしさ、たのしきは忘れられない。活動のしがいは、これからまだまだといつたところ。